

第246回地震予知連絡会（令和7年2月27日）各機関からの提出議題

【1】気象庁

1. 地殻活動の概況

a. 地震活動

(O) 全国 M5.0 以上の地震と主な地震の発震機構

要旨：2024 年 11 月～2025 年 1 月の全国の地震活動概況を報告する。

3. プレート境界の固着状態とその変化

a. 日本海溝・千島海溝周辺

(S) 岩手県沖の地震（11 月 24 日 M5.0）

(S) 宮城県沖の地震（11 月 26 日 M5.4）

(S) 福島県沖の地震（12 月 28 日 M5.3）

b. 相模トラフ周辺・首都圏直下

(S) 茨城県南部の地震（12 月 17 日 M4.2）

(S) 東海・南関東地方の地殻変動

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

(S) 南海トラフ沿いの地震活動

(S) 東海地域から豊後水道にかけての深部低周波地震活動

(S) 南海トラフ沿いの長期的スロースリップの客観検知

(S) 東海・南関東地方の地殻変動

(S) 紀伊半島北部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（12 月 10 日～17 日）

(S) 東海から紀伊半島北部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（1 月 24 日～2 月 3 日）

(S) 四国西部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（10 月 31 日～11 月 6 日、11 月 15 日～19 日）

(S) 四国中部から中国西部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（12 月 15 日～31 日）

(S) 四国東部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（1 月 3 日～10 日）

(O) 日向灘の地震（1 月 13 日 M6.6、14 日 M5.0、15 日 M5.4）

要旨：2025 年 1 月 13 日 21 時 19 分に日向灘の深さ 36km で M6.6 の地震（最大震度 5 弱、長周期地震動階級 2）が発生した。この地震により、宮崎県の宮崎港（国土交通省港湾局）で 23 cm の津波を観測するなど高知県から鹿児島県にかけて津波を観測した。

気象庁はこの地震に対して、最初の地震波の検知から 6.1 秒後の 21 時 19 分 44.4 秒に緊急地震速報（警報）を発表した。また、13 日 21 時 29 分に高知県及び宮崎県に津波注意報を発表した（13 日 23 時 50 分に津波注意報を全て解除）。

気象庁では、13 日 21 時 55 分にこの地震が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始したことをお知らせする南海トラフ地震臨時情報（調査中）を発表し、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会を臨時に開催し、この地震と南海トラフ地震との関連性について検討を行った。その結果、今回の地震は南海トラフ地震防災対策推進基本計画で示されたいずれの条件にも該当せず、南海トラフ地震の発生可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる現象ではなかったことから、13 日 23 時 45 分に南海トラフ地震臨時情報（調査終了）を発表した。

この地震は、発震機構（CMT 解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

この地震の震源付近では、2024 年 8 月 8 日 16 時 42 分に M7.1 の地震（深さ 31 km、最大震度 6 弱）が発生しており、この領域では 2024 年 8 月 8 日から 2025 年 1 月 31 日までに震度 1 以上を観測した地震が 55 回発生した。

d. その他

(S) 中規模繰り返し相似地震の発生状況と発生確率（2025）

4. その他の地殻活動等

(S) 陸奥湾の地震（11 月 16 日 M4.6、11 月 20 日 M5.1）

(O) 福島県会津の地震（1 月 23 日 M5.2、M4.7）

要旨：2025 年 1 月 23 日 02 時 49 分に福島県会津の深さ 4 km で M5.2 の地震（最大震度 5 弱）が、

同日の08時09分にはほぼ同じ場所の深さ3kmでM4.7の地震(最大震度4)が発生した。これらの地震は地殻内で発生した。発震機構は、いずれも北西-南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

- (O) 「令和6年能登半島地震」(最大規模の地震:2024年1月1日M7.6、期間中の最大規模の地震:2024年11月26日M6.6)
要旨:能登半島では2020年12月から地震活動が活発になっており、2023年5月5日にはM6.5の地震(最大震度6強)が発生していた。2023年12月までの活動域は、能登半島北東部の概ね30km四方の範囲であった。
2024年1月1日16時10分に石川県能登地方の深さ16kmでM7.6の地震(最大震度7)が発生した後、地震活動はさらに活発になり、活動域は、能登半島及びその北東側の海域を中心とする北東-南西に延びる150km程度の範囲に広がっている。
地震の発生数は増減を繰り返しながら大局的に緩やかに減少してきているが、M7.6の地震後の地震活動域の西端の石川県西方沖で、2024年11月26日にM6.6の地震(最大震度5弱)が発生し、震度1以上を観測した地震が11月は136回、12月は37回、1月は12回(このうち、石川県西方沖のM6.6の地震活動域で、11月26日から30日は123回、12月は29回、1月は5回)発生するなど活発な状態が続いている。
- (O) 鳥島近海の地震(12月27日M6.2)
要旨:2024年12月27日06時02分に鳥島近海の深さ10km(CMT解による)でM6.2の地震(震度1以上を観測した地点はなし)が発生した。この地震の発震機構(CMT解)は、東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。
- (S) 奄美大島北東沖の地震(11月17日M5.9)
- (S) 薩摩半島西方沖の地震(12月17日M5.2)
- (S) 宮古島近海の地震(11月30日M5.8)
- (O) 硫黄島近海の地震(11月7日M6.3)
要旨:2024年11月7日07時54分に硫黄島近海の深さ10km(CMT解による)でM6.3の地震(最大震度2)が発生した。この地震の発震機構(CMT解)は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。
- (O) マリアナ諸島の地震(11月11日M6.0)
要旨:2024年11月11日19時16分(日本時間、以下同じ)にマリアナ諸島の深さ10km(CMT解による)でM6.0の地震(日本国内で震度1以上を観測した地点はなし)が発生した。この地震はフィリピン海プレート内で発生した。発震機構(CMT解)は北東-南西方向に圧力軸を持つ型である。
- (O) 千島列島の地震(12月8日M6.1、27日M6.8)
要旨:2024年12月8日19時25分(日本時間、以下同じ)に千島列島の深さ207km(米国地質調査所(以下、USGS)による)でM6.1の地震(日本国内で観測した最大の揺れは震度1)が発生した。この地震の発震機構(気象庁によるCMT解)は東北東-西南西方向に圧力軸を持つ型である。また、同月27日21時47分には千島列島の深さ146km(USGSによる)でM6.8の地震(日本国内で観測した最大の揺れは震度2)が発生した。この地震の発震機構(気象庁によるCMT解)は、北西-南東方向に圧力軸を持つ型である。これらの地震は太平洋プレート内部で発生した。
- (O) 台湾付近の地震(1月21日M6.1)
要旨:2025年1月21日01時17分に台湾付近でM6.1の地震(日本国内で観測された最大の揺れは震度1)が発生した。この地震の発震機構(CMT解)は、西北西-東南東方向に圧力軸を持つ型である。
- (S) バヌアツ諸島の地震(12月17日Mw7.3)
- (O) チベット自治区(中国)の地震(12月17日Mw7.3)
要旨:2025年1月7日10時05分(日本時間、以下同じ)にチベット自治区(中国)の深さ10kmでMw7.1の地震(Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード)が発生した。この地震の発震機構(気象庁によるCMT解)は東西方向に張力軸を持つ正断層型である。気象庁は、この地震に対して、同日10時27分に遠地地震に関する情報(津波の心配なし)を発表した。この地震により、少なくとも死者126人、負傷者188人などの被害が生じた。

【2】国土地理院

1. 地殻活動の概況

b. 地殻変動

- (O) GEONET による全国の地殻変動（水平）（3 か月）

要旨：GEONET による GNSS 連続観測から求めた、最近 3 か月間における全国の水平方向の地殻変動を報告する。

- (O) GEONET による 2 期間の地殻変動ベクトルの差

要旨：最近 3 か月間の水平方向の地殻変動について、1 年前の同時期の水平変動ベクトルとの差を取って得られた非定常的な変動の概況を報告する。

- (O) GEONET による全国の地殻変動（水平）（1 年）

要旨：GEONET による GNSS 連続観測から求めた、最近 1 年間における全国の水平方向の地殻変動を報告する。

- (O) GNSS 連続観測から推定した日本列島のひずみ変化

要旨：GNSS データから推定した日本列島の最近 1 年間のひずみ変化の概況を報告する。

2. 東北地方太平洋沖地震関連

【東北地方太平洋沖地震後の地殻変動】

- (O) 地殻変動ベクトル

要旨：東北地方太平洋沖地震後における水平・上下の地殻変動について、全期間の累積変動の概況を報告する。

- (O) GNSS 連続観測時系列

要旨：東北地方太平洋沖地震後の東日本における GNSS 連続観測の時系列の概況を報告する。

- (O) 変位速度のプレート収束方向に関する水平勾配（北海道～関東地方）

要旨：東北地方太平洋沖地震後のプレート間の固着状況の変化について、電子基準点の変位速度のプレート収束方向に関する水平勾配によるモニタリングの概況を報告する。

3. プレート境界の固着状態とその変化

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

【森～掛川～御前崎間の上下変動】

- (S) 電子基準点の上下変動（5 基線）

- (S) 電子基準点の上下変動 GNSS 連続観測

- (S) 駿河湾周辺 GNSS 連続観測時系列

- (S) 東海地方の非定常地殻変動

- (O) 東海地域の非定常水平地殻変動（長期的ゆっくりすべり）

要旨：2022 年初頭から静岡県西部から愛知県東部において、これまでの傾向とは異なる地殻変動を GNSS で観測したので、その概況を報告する。

- (S) 紀伊半島 電子基準点の上下変動 GNSS 連続観測

- (S) 南海トラフ周辺 GNSS 連続観測時系列

- (S) 南海トラフ沿いの非定常地殻変動

- (O) 紀伊半島南部の非定常水平地殻変動（長期的ゆっくりすべり）

要旨：2020 年初頭頃から紀伊半島南部において、これまでの傾向とは異なる地殻変動を GNSS で観測したので、その概況を報告する。

- (O) 四国西部の非定常水平地殻変動（短期的ゆっくりすべり）

要旨：四国西部において、深部低周波地震（微動）と同期したゆっくりすべりを GNSS データから推定したので、その概況を報告する。

- (O) 四国中部の非定常水平地殻変動（長期的ゆっくりすべり）

要旨：2019 年春頃から四国中部において、これまでの傾向とは異なる地殻変動を GNSS で観測したので、その概況を報告する。

- (S) 室戸岬周辺 電子基準点の上下変動 GNSS 連続観測

【2025 年 1 月 13 日に発生した日向灘の地震】

- (O) 地殻変動ベクトルと GNSS 連続観測時系列

要旨：地震前後の GNSS 連続観測の解析結果を報告する。

- (O) 「だいち 2 号」による SAR 干渉解析結果

要旨：だいち 2 号のデータの解析を行ったので、その概況を報告する。

(O) 震源断層モデル

要旨:GNSSで観測された地殻変動を基に震源断層モデルを推定したので、その概況を報告する。

【2024年8月8日に発生した日向灘の地震に伴う地殻変動】

(O) 地殻変動ベクトルとGNSS連続観測時系列

要旨:日向灘の地震に伴う地殻変動の概況を報告する。

(O) 余効すべり

要旨:日向灘の地震後の余効すべりの概況を報告する。

4. その他の地殻活動等

(S) 北海道太平洋岸GNSS連続観測時系列

(S) 関東周辺GNSS連続観測時系列

【2025年1月23日に発生した福島県会津の地震】

(O) GNSS連続観測時系列

要旨:地震前後のGNSS連続観測の解析結果を報告する。

【2024年11月26日に発生した石川県西方沖の地震】

(O) GNSS連続観測時系列

要旨:地震前後のGNSS連続観測の解析結果を報告する。

【令和6年能登半島地震】

(O) 地殻変動ベクトルとGNSS連続観測時系列

要旨:令和6年能登半島地震に伴う地殻変動の概況を報告する。

【2025年1月7日に発生した中国・チベット自治区の地震に伴う地殻変動】

(O) 「だいち2号」によるSAR干渉解析結果

要旨:だいち2号のデータの解析を行ったので、その概況を報告する。

【3】北海道大学

【4】東北大学理学研究科・災害科学国際研究所

【5】東京大学地震研究所

【6】東京科学大学

【7】名古屋大学

【8】京都大学理学研究科・防災研究所

【9】九州大学

【10】鹿児島大学

【11】統計数理研究所

4. その他の地殻活動等

(O) 日向灘沖南部の余震活動について

要旨:日向灘沖南部の余震活動について、最大余震まで大森宇津式で変換した時空間パタンの特徴、特に拡散性について述べる。次に、定常・非定常ETASモデルを適用し、それらの適合性を比較した結果を可視化し、議論する。さらに、日向灘沖南部の地震と九州内陸部の関係について整理する。

【12】防災科学技術研究所

3. プレート境界の固着状態とその変化

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

(O) 日本周辺における浅部超低周波地震活動

要旨:防災科研F-net記録等の波形相関を用いた解析により、1月10日以降、日向灘及びその周辺

域で超低周波地震活動を検知した。

1月中旬から東及び南方向に活動域を拡大させたが、下旬には活動は終息した。

(O) 西南日本の深部低周波微動・短期的スロースリップ活動状況

要旨：短期的スロースリップイベントを伴う顕著な深部微動活動は、12月16日～28日に四国中部から西部で、1月24日～31日に東海地方から紀伊半島北部において発生した。これ以外の主な微動活動として、10月31日～11月4日に四国西部、12月10日～17日に紀伊半島北部から中部、1月5日～10日に四国東部から中部での活動が検知された。

(S) 南海トラフ周辺における最近の傾斜変動

【13】 産業技術総合研究所

3. プレート境界の固着状態とその変化

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

(S) 東海・伊豆地域における地下水等観測結果 (2024年11月～2025年1月)

(S) 紀伊半島～四国の地下水・歪観測結果 (2024年11月～2025年1月)

(S) 東海・紀伊半島・四国における短期的スロースリップイベント (2024年11月～2025年1月)

4. その他の地殻活動等

(S) 神奈川県西部地域の地下水位観測 (2024年11月～2025年1月)

(S) 岐阜県東部の活断層周辺における地殻活動観測結果 (2024年1月～2025年1月)

(S) 近畿地域の地下水・歪観測結果 (2024年11月～2025年1月)

(S) 鳥取県における温泉水・地下水変化 (2024年8月～2025年1月)

【14】 海上保安庁

2. 東北地方太平洋沖地震関連

(S) 日本海溝沿いの海底地殻変動観測結果

3. プレート境界の固着状態とその変化

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

(S) 南海トラフ沿いの海底地殻変動観測結果

4. その他の地殻活動等

(S) 能登半島北部における海底地形調査結果

【15】 海洋研究開発機構

【16】 その他の機関

記載分類

(O) 口頭報告, (S) 資料提出のみ

1. 地殻活動の概況

a. 地震活動

b. 地殻変動

2. 東北地方太平洋沖地震関連

3. プレート境界の固着状態とその変化

a. 日本海溝・千島海溝周辺

b. 相模トラフ周辺・首都圏直下

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

d. その他

4. その他の地殻活動等

5. 地殻活動の予測実験